

JR東海労なごや

2012年7月17日 No. 913

JR 東海 労 名 古 屋 地 方 本 部

発行者： 山 田 哲 也

編集者： 堀 部 肇

JR東海葛西会長が読売新聞コラム「地球を読む」で、 なんと！大飯原発再稼働させた 野田首相を大絶賛！（怒）

7/8読売新聞コラム「地球を読む」にJR東海葛西会長の意見が掲載された。葛西会長は、「誰も手を出そうとしない火中の栗を土壇場で拾った野田首相の責任感は一国のリーダーとして相応しいものだと思う」と、圧倒的多数の国民が反対している大飯原発を再稼働させた野田首相を大絶賛し、「日本経済の体力維持のためには、出来るだけ低コストで安定的に電力を供給する必要があること、それには現有原発の活用は必須である」、原発推進の持論を展開している。一方で、「浜岡原発は国の安全基準に則って建設・運転されており、時の首相とはいえ、何法的根拠もない個人的な要請に・・・全ての原発が停止する端緒となった」と、菅前首相を厳しく批判しているのだ。

国民の生活は二の次

葛西会長は、「大飯原発3，4号機の再稼働が決まったことにより、日本は2ヶ月近く続いた稼働原発ゼロという異常事態を脱することとなった。日本のエネルギー安定供給はようやく袋小路を脱したのである。日本国民と日本経済のために本当に良かったと思う」と述べている。

また、野田首相は「原発を止めたままでは日本は立ちゆかない。国民生活を守る」と再稼働を認めた。そして、民主党は、「国民生活が第一」と訴え、政権交代を果たしたのではなかったのか。福島原発事故は、未だ収束の目処はたっていない。事故によって流失した放射性物質は、土壌、河川、海洋などを汚染し、生まれ育った家、土地を奪い、家族は離散させられるなど、多くの国民生活を奪い、苦しめているのだ。

野田首相、葛西会長は国民、とりわけ、福島の皆さんの苦痛と怒りの声が聞こえていないのか。「日本国民と日本経済のために」「原発は無くってはならない重要な電源である」は決して、国民の声ではない。明らかに権力者、財界の声だ。

JR東海名古屋地本は、葛西会長の「日本経済の体力維持のためには、現有原発の活用は必須である」という発言は、福島第一原発事故で苦しんでいる人たちを切り捨てるものであり認めない！

葛西会長は、発言を撤回し、謝罪せよ！